

出かけてみました

アメリカ

コーネル大学訪問記

姜晋如（会員）

今年の3月、長男が留学しているアメリカのコーネル大学を訪ねた。以前から、息子がコーネルのキャンパスは北京大学よりきれいだと言っているのを聞き、「そんなはずはない」と思っていた。私の母校でもある北京大学は、池を囲んだ宮殿式の建物や石造りの船などがキャンパスを中国庭園風に仕上げている。このキャンパスは私の誇りであった。

しかし、コーネル大学も世界有数の名門校であり、今年の世界ランキング（The Times Higher Education World Reputation Rankings 2014）では17位だった（同ランキングで、東京大学は11位、北京大学は41位）。ち

なみに、息子が入っているロースクールは全米ランキング13位である（U.S. News Best Law Schools Ranking）。とにかく、いったいどちらがきれいか、自分の目で確かめたかった。

3月5日、成田から12時間かけてニューヨークのジョン・F・ケネディ空港に飛び、4時間待って、定員80人の路線バスのような小さな飛行機に乗り換えて、ニューヨーク市の北西部にあるイサカという小さな町に辿り着いた。バスターミナルのように小さな空港だった。息子とタクシーで真っ暗な夜道を20分ほど走って、息子の住む学生寮に着いた。

次の朝、まずこの学生寮をゆっ

くり見て回った。4階建て、各階は細い通路を挟んで、両側に一人部屋と二人部屋が並んでいた。トイレと洗面所、シャワールームは共用だが、ラウンジとキッチン、コインランドリーもある。

この寮は大学の国際交流プロジェクト「ランゲージ・ハウス」に参加する学部生と指導員だけが住んでいる。学生たちは自分で申し込んだ語学グループに所属し、毎週、グループ活動に参加することが義務づけられている。

息子は日本語グループの指導員をしている。週に4回、学生たちと食堂で夕食を共にしながら、その国の言葉で会話する。私も1週間の滞在中に、3〜4回この夕食に加わって、中国語

訛りの日本語で学生たちと交流を深めた。このプロジェクトに参加する指導員は寮費を免除され、食費も半額ですむという報酬がある。語学グループには、日本語のほかに、中国語、スペイン語、ドイツ語、フランス語、アラブ語もある。これほどまでに国際交流に力を入れるコーネ

ル大学を見て、やはり世界で活躍する人材の育成を大事にしていると思った。

コーネル大学は山の上であり、広いキャンパスは坂道ばかり。移動はバスか歩き。結構、大変だった。1865年創立のこの大学はお城のようなハースル式建物が有名だ。建物はほとんど同じ様式で統一されている。2本の溪流の深い渓谷と滝がキャンパスを横切っている。

「お城」の外見は、教会のように屋根が尖っていて、入り口のアーチ型の重い木造の扉には色々な模様が刻まれている。

中でも一番気に入ったのは「Lyon Hall」という学生寮。全体が2つの塔に分かれており、そこから坂下のキャンパスと遠方の山々が一望できる。この寮が大好きになって、昼も夜も何度も訪れた。

学生寮のほかに、キャンパスの中央に、立派な鐘楼がそびえ立っている。一番上の階には、大きな鐘が吊り下がって、すぐ

下の階に鐘と連動する楽器が置いてある。私がこの鐘楼に上った時には、ちょうど学生が演奏していて、校歌と名曲が広大なキャンパスに響き渡っていた。

図書室は天井の高い大きい部屋で、暖炉の横にキャンパスの景色を望めるアーチ型の窓が両サイドにあり、窓の前に居心地の良い長いソファが並んで、ソファの横に、さらに白い大理石の男女1人ずつの半身彫像が置かれている。日本や中国から博物館にもなるかという素敵な空間が、普通に学生に開放されている贅沢さに素直に感動した。もし、自分がこの学生ならば、絶対毎日この図書室で勉強するだろうと思った。

週末の土曜日に、息子と町の唯一の「繁華街」でダイナーを楽しんだ。繁華街と言っても、せいぜい長さ100mほどの2本の通りでしかなかったが。この日のお店は、アメリカ初の「菜食主義」のレストランとして有名になったところだそう。ダイナーが始まる30分前に到

着したが、店内では既に20人以上の客が待っていた。待合スペースの本棚に、この店のレシピ本が山ほど陳列されて、店の名前がプリントされたTシャツも置いてあった。早く並んだおかげで、10分ほど待っただけで、すぐテーブルに案内された。

食事は野菜だけではなく、サーモンもあり、おいしかった。デザートを頼むと、親切なおばあちゃん店員が、「特別サービスで、あなた方にはアイスクリー



毎日ここで勉強したい

ムを山盛りにしてあげる」とここにこしながら、大きなアイスクリームのボウルを運んでくれた。わたしがうれしくなって、アイスクリームを食べ終わったところ、隣のテーブルを見ると、やはり同じような山盛りアイスクリームがあった。特別扱いされた訳ではないことがわかって、おばあちゃんの素敵な笑顔が忘れられなかった。

次の夜もまた外食。今度もまた有名なお店で、ケネディ元大統領やクリントン元大統領夫妻など著名人が食事をしたそう。料理は3種類のタレがついた3種類の生ガキが名物、おいしかった。しかし、帰るときに、僻地の不便さを思い知った。バス停で20分ほど待ってもバスが来ないので、おかしいと時刻表を見ると、日曜日は最終便が6時20分とはっきり書かれているではないか。40分かけて、歩いて学寮に戻った。

キャンパス散策の他に、ワインセラー見学ツアーにも参加し、ブドウ畑と2か所のワインセラー

を見学した。息子の話によると、コーネル大学はそもそも農学部と畜産学部から始まった大学で、ワイン、牛乳など農畜産物がおいしいので有名だという。ワインをいっぱい試飲し、一番おいしいと思ったワインを2本も買った。コーネルはきれいな建物だけではなく、素晴らしい自然にも恵まれていると羨ましくなった。

1週間の滞在期間が終わりに近づいた頃、私はようやく息子の「北京大学よりきれい」という「コーネル愛」を理解できた。理解できただけではなく、共感することができた。北京大学のキャンパスは、半分は素敵な中国庭園になっているが、後で建てられた半分の建物は現代的なビルというだけではなく、建築様式がバラバラで、ハーモニーが取れていないので雑な感じは否めない。これからの北京大学も、ぜひともコーネルのように統一された中国庭園風の素晴らしいキャンパスに仕上げしてほしい。